



「繋がりたい」

ひかりの子幼稚園

「育自のひろば」の一コマ

真夏のような暑さ、悲しい置き去り園バスの事故、また大型台風にも2度も見舞われた9月でした。私事で恐縮なのですが、夏休み、関東に住む娘が子ども2人を連れて2週間里帰りをしていました。6歳と2歳の孫の相手をしながら、忙しい日々を送っていました。

2歳児のイヤイヤ期は Terrible2(恐怖の2歳)と呼び、自我が爆発するややこしい、心揺れ動く時期と言われています。

夕方、お風呂の前に2歳の孫に服を脱がせようとする、「自分でやりたかったのに！」とポンポン怒りだし、脱がした服をまた着出す・・・「あなの？こうなの？」とすったもんだしていると、「もう！いい加減にしないで！」と風呂場で待っているママがキレて收拾がつかなくなり、泣き声と怒鳴り声が鳴り響く、お風呂タイムの日もありました。

娘家族が帰る最終日、娘に持たせる荷作りをしていた時のこと。持って帰らそうと思っていたものが見つからず、必死で家中大探しをしていると、孫2人が「遊んでよ～」とばかりにラッパを「プー、プー」私の耳元でしつこく吹きならす・・・
いつも遊んでくれるばあばも疲れがたまっていたのか、この時はイラっときて「うるさい！！静かにしなさい！！」と怒鳴ってしまいました。初めてのことで、孫も自分もびっくり！！

この時子育て中のお母さんは本当に大変だと思いました。

親はこうあるべきとか、理想的な母親像とかいろんな情報が本やネットで目に入ってきますが、そんなこと言ってもらえない現実が毎日あるのですね。子どもの思いに振り回されながら、時々思いを受け止めながら、どこで折り合いをつけてくれるか、どの言葉で気持ちを切り換えられるのか、あの時はどう言えばよかったのか・・・を試しながらの毎日を送っておられるのだと思います。

お互いが落ち着いたときにゆっくり時間をかけて、「そう、自分で脱ぎたかったんやね。もう自分でできるんだ。ごめんね。見てるからやってみて！」気持ちを十分聞いてやり、穏やかにこちらの状況や気持ちを説明すると、理解してくれるようになってきました。しかし、これは時間と心の余裕がないと難しいですね。

先日の「育自のひろば」での話。「怒ってばかりいて、ママ、嫌い！」と子どもに言われ、とてもとても傷ついたらと話される方がありました。参加者は「子どもの語彙は少なく、それは好きの裏返し」「大丈夫、ごはん食べさせて、洗濯して、幼稚園送って、それだけでOやん。よくやっているよ。」などなど話に花が咲き、お母さんの涙が笑顔に変わりました。

子育ては迷いの連続ですから、近くに子育て仲間がいて、時々悩みや愚痴が言い合えたらいいと思いますが、コロナの状況でそれが遮断されて、保護者が孤立化していることがとても心配です。「育自のひろば」が温かい交わりや、つながりの場になればと願って次回は11/16(水)に開催いたします。

めっきり涼しくなってきました。運動会ごっこが各クラスで盛んに行われています。行事のための練習ではなく、日々の遊びの中から生まれたことを発表する「運動会」を、子どもたちと共に職員一同楽しみにしています。

園長 松本直子